

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 9月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	349270095		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	小規模多機能ホーム宮内温泉湯治の館ひまわり		
所在地	広島県廿日市市宮内字佐原田4215番地の1 (電話) 0829306072		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2011_021_kani=true&JigyosyoCd=3492700095-00&PrefCd=34&VersionCd=021
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島県南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成24年8月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1. 来所時には、バイタル測定を行い体調に変化がないか観察し、早期発見に努めています。 2. ご利用について泊まりが必要な時や通いの追加利用の要望時には、迅速に対応します。 3. 四季折々の行事には、昼食メニューも工夫しながら季節感を表すようにしています。 4. 温泉成分が含まれているお風呂に一人ひとりゆったりとくつろいで入って頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>▶職員全員で作り上げたホーム理念「笑顔と思いやりのある心を大切にします」を実践し、利用者・家族の希望に添って全職員で一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいる。 ▶医療系グループの利点を生かし、介護と医療連携のチームケアに力を入れており、毎日来所する看護部長に相談・報告をし、利用者の健康管理を徹底して行っている。 ▶利用者の思いや意向の希望を聴き、折り紙や書道等6つのクラブが出来ており、利用者が好きなクラブ活動に参加し、職員が講師役を努めている。また、2年に1度サクラピア2階美術ギャラリーで開催される、法人関連事業所合同の作品展には利用者と一緒に作製してきた作品70点余りを出展している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療法人の理念を月2回の朝礼時に唱和している。小規模多機能ホームの理念を作成し揚げることによって理念を共有して実践に繋げている。	法人理念を基に、事業所独自の理念を職員と共に作成し要所に掲げ、朝礼時に職員全員で唱和し理念の共有と浸透を図っている。全職員は笑顔で利用者の身になって同じ視点で心に寄り添ったケアを実践している。又、月1回開催される全体会議（併設のグループホームと合同）の中で振り返り確認している。	(参考) 理念 【笑顔と思いやりのある心を大切にします】 基本方針 (1)信頼関係を築き心に寄り添うホームを目指します (2)ご家庭の負担を軽減し安心出来るホームを目指します
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の様々なボランティアの方に来ていただく事により社会的交流を図っている。近隣の理髪店にて散髪をしてもらっている。	毎月1回定期的に折り紙、新たに大正琴演奏や2～3カ月に1度不定期で地域のボランティアの方が来られる。毎年地域の中学校の職場体験を受入れている、今年も4日間の日程で8名の学生の受入れが決まっている。又、法人関連事業所と連携し様々なボランティア行事には利用者と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の集いにて、小規模多機能のサービスを紹介していく中で認知症の理解を求めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議において出た意見を参考に外出の取り組みを増やす等している。	併設事業所と合同で隔月の第2火曜日に家族、民生委員、市職員、知見者の出席を得て定期的開催している。8月の会議は年1回の家族会に併せ開催し、事業所の現状報告・家族からの意見や要望等について討議し出席者からの意見、助言を参考にサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	月1回は、市役所高齢介護課の窓口に向い、職員と情報交換を行っている。	運営推進会議に毎回、市職員の出席を得て、事業所の実情、サービスの取組みに対し助言指導を受けている。又、訪問調査の結果や事業所の新聞”ぼかぼか便り”を直接持参するなど、協力関係の強化を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は感知センサーにて出入りを確認している。施錠はしていない。転倒の危険のある利用者に対して見守りを強化し安全確保に努めている。</p>	<p>身体拘束については、職員は研修により熟知している。年1回は、全体会議で確認し全職員で共有の強化を図っている。新たな禁止項目(言葉の拘束等)は都度、全体会議で徹底させている。玄関は基本的に施錠しない、夜間は利用者全員が帰られた時点で安全のため施錠している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止の研修に職員が参加し、参加した職員がフィードバックしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度についての勉強会を行い職員の意識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族に対して説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議にてお話を聞く機会を持っている。</p>	<p>家族会を年1回、夏まつり行事と併せ開催し多数の家族が出席される。家族から出された自宅介護の課題や要望等について意見交換を行い、家族の立場に立った同じ目線で検討し運営に活かしている。又、毎日の送迎時や連絡ノート、電話による意見や要望等あった場合は速やかに職員と検討を行い反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体会議を持ち意見を出してもらおうようにしている。	管理者は常に職員と率直に話し合える環境を醸成されている。朝の朝礼時や日々接する中での意見等を集約し、全体会議でホーム意見として提案し討議されている。全体会議終了後、要望があればホーム職員で運営上の諸課題等を話し合い解決している。職員から食材等の仕入先を他業者に変更したいの意見を反映し業者の変更を行った事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課があり、面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	院内外研修の内容を掲示し、さまざまな研修を受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	小規模多機能交流会を輪番制で開催し意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面談時に本人と話をすることで、本人が困っていること、不安なこと、要望等を聞きサービス内容に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	初回訪問において家族に聞き取りを行いアセスメントをしている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	必要としている支援を見極め対応を行っている。日中の見守り、同年代の方との交流、入浴介助の希望が多い。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	畑作業や野菜の収穫を通して一緒に楽しみを見出している。昼食時テーブルを拭いて頂いたり、料理の下準備や片付けをお願いしている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	本人と家族の絆を大切にし、家族の意見を聞きながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	主に他の土地から子供の所に来た人が多く、馴染みの関係を築いていく途中である。小規模が馴染みの場となってきている人もいる。	地域には新興団地が多く利用者の大半は田舎の両親、一人暮らしの親を呼ばれて一緒に暮らされている。小規模多機能ホームを利用することで職員をはじめ新しい人間関係が生まれ馴染みの人、馴染みの場が築かれてきている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し配席を考えたり、ゲームを行ったりし一緒に過ごせるようにしている。季節によっては、テラスで食事を行い関わりを深めるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入所された人・サービスを必要としなくなった人に対して様子伺いの訪問をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントをすることにより本人の意向を把握するようにしている。	利用前のアセスメントで本人・家族から聞き取り把握した思いや意向と、利用後の日常の関わりの中から無意識に表出する潜在能力を汲み取っている。利用者の思いや意向を受け止め、特技を持つ職員がリーダーとなり、毎月の折り紙・書道クラブ、2カ月に1回の手芸・おやつ・料理・カラオケ等の各クラブに自由に参加して貰っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとり個別に入浴しており、その時、入りたくない方には時間を変えて誘ったり、次の日に変える等して気分よく入浴をして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人、家族より聞き取りを行い把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	新規の利用者についての対応や現状の把握、モニタリングについて意見を出し合っている。	一人ひとりに担当者を決めている。毎週木曜日13:00からケアマネジャーと利用者担当、必要関係者でカンファレンスを行い介護計画のモニタリングと見直しを行っている。日々の関わりの中で本人の意向を把握し、家族とは日頃から自宅と事業所の暮らしの課題を本人視点で話し合いケアマネジャーが介護計画に活かし作成している。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	サービス利用時の様子を個別記録に記入し、情報の共有、実践に活かしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	急な泊まりや受診介助など、状況に応じた柔軟な支援が出来ている。定期的に散髪移動介助を行っている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	民生委員に運営推進会議に出席して頂き、独居の人の現状を聞いている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	かかりつけ医とうまく連携がとれ、適切な支援ができています。	利用者、家族の希望があれば、今までのかかりつけ医に引き続き受診して頂けるように支援している。健康管理は2週間に1回かかりつけ医で定期受診をしている。病状急変時には、法人との医療連携を活かした24時間の支援体制を採っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	看護職員との連携を密にし、個々との状態に合わせ適宜受診や看護を受けられるよう支援ができています。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院との情報交換等はスムーズに行われている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	家族と話し合いが出来ているが、地域の関係者とはできていない。	運営母体の医療法人は地域ケアの実践を目指すことを基本方針とし利用者、家族の希望があれば、重度化した場合や終末期ケア「人としての尊厳を最期まで守り抜く」の支援に取り組まれている。ホームで2件の終末期ケアの支援事例もある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	全体会などでシュミレーションを行ったり、朝礼で急変時の連絡方法を復唱している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	毎月火災訓練等を時間や状況の設定を変え訓練を行っている。	毎月1回、全体会議の前に全職員で夜勤・早出・日勤時間帯を想定した避難誘導訓練を行い反省会を開いて次回につなげている。法人や関連事業所が行う消防訓練時は必ず参加している。今後早期に消防署立ち合いの訓練と運営推進会議にゲストティチャーとして出席して貰い防災意識を高める計画をされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴時など利用者の方の希望（介護者の性別）に気がつかっている。	法人全体を対象に外部講師による接遇マナー研修を取り入れ徹底を図り、質の高いサービス提供に取り組まれている。職員は一人ひとりの動き、仕草、表情などに常に目配り、気配りし、思いや感情を汲み取り適切な対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	作業など一人ひとりに合ったものを考えている。また、休息をとりたい方には部屋で臥床して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いせず、一人ひとりの気持ちを聞き入れながら、プログラム内容等を変更することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後の化粧や髭剃り等、鏡の前でゆっくりしてもらったり介助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている。	時には、食べたいものを聞いたり、皮むき等のごしらえを手伝って頂いたりテーブル拭き・お盆拭きなど出来る範囲で行っている。音楽を流し雰囲気作りにも気がつかっている。季節のよときは、時々テラスで食事やおやつを食べている。	大まかな献立は決めている。職員全員が交代で冷蔵庫にある食材で献立を決め、利用者の出来る力を見極めた役割を持って貰い、一緒に調理等を行っている。利用者の誕生日は職員手作りのケーキでお祝いをしている。季節に応じた弁当を作り花見や近隣の公園等に出かけ食事を楽しむ取り組みも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>通常の形状では食べにくい方には小さく刻んで食べやすくする等している。水分においては、温かい方がよいか冷たい方がよいか好みに合わせて出している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>通いの人には昼食後の歯磨きを行い，泊まりの人には，毎食後は磨きを行っている。基本，本人がするのを見守り，必要に応じて声かけ介助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握しトイレに間に合わない状況を減らすことにより，紙パンツ，パットの使用を減らしている。</p>	<p>一人ひとりの排泄を丁寧にチェックし排泄パターン把握し基準表を作成している。表に基づくトイレ誘導や何気ない動きや気配から察知し，さり気なく誘導することで排泄の自立に向けた支援と紙パンツ，パットの使用を最少に抑えている。又ホームと共通した家族に出来る介助の仕方を説明し，排泄の自立に向け協力し取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>バランスの良い食事作りを心がけている。体操をレクリエーションの中に取り入れ体を動かすよう支援している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとり個別に入浴しており，その時，入りたくない方には時間を変えて誘ったり，次の日に変える等して気分よく入浴をして頂いている。</p>	<p>希望により毎日・朝早く・週3回・1時間近く入浴される長風呂（一番最後に）等，様々な利用者ニーズに対応している。ホームは特殊入浴装置（特浴）を設置しており浴槽の湯も1回ごと半分が入替わる機能が付いている。浴槽は温泉水を上がり湯シャワーは水道水を使用している。見守りで入浴だけの利用者もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>室温調整を行い、気持ちよく眠れるようにしている。ADLに合わせた部屋の振り分けを行い利用して頂きやすい様にしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の説明書の確認をし、利用者の状態など観察しながら服薬の支援を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの好みを考えながら作業やレクリエーションを提供している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>テラスで日光浴、季節の外出（花見・紅葉狩り）を行っている。</p>	<p>定期的に10人乗り社用車でドライブに出かけている。利用者で不穏のある方には送迎時を利用しドライブによる気分転換を図るなど工夫をしている。法人の食堂で月1回カラオケ喫茶（コーヒー・紅茶・ケーキ無料）のイベントに順番に参加し又、関連事業所の行事に3～4人づつ順番に出掛け、新しい馴染みの人・交流の場となっている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>散髪の時、髭剃りとカットなど本人が選択して支払いを行っている。また買い物代行を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望すれば、電話できる体制を整えている。携帯電話を持っておられる方などは、使用方法が解らない時は説明も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	クラブ活動、レクリエーションなどで作成した作品を掲示している。毎月のカレンダーも利用者を作成して頂き、季節感を感じて頂けるよう工夫している。	事業所の敷地は広く窓から季節の桜や紫陽花、紅葉など、背景に自然の山並みが目に映える。室内は清潔に保たれ温湿度も最適に管理されている。利用者作製の作品や掲示物は力がこもっていて、生き生きとした生活感を感じる。一日中心地よいBGMを流されている。利用者持参の演歌（氷川きよし等）も流されることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座席配置に注意し、その人らしい空間作りに注意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者に合った部屋、いつもと同じ部屋などを使用して頂いている。	泊まりの多い利用者には環境の変化に配慮し、いつもの部屋を使って貰っている。泊まりの部屋は一人ひとりの感覚に違いがあるので特に温湿度に気をつけている。本人と家族の希望に応じ自宅で常時使用しているポータブルトイレを持ち込まれる方もある。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの扉に『空き』『使用中』と札をかけてわかりやすくしている。家事も出来る方には手伝って頂いている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 小規模多機能ホーム宮内温泉ひまわり

作成日 平成 24 年 10 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が職員全員に浸透させる	理念を職員全員に浸透させ共有する	毎日朝礼時に唱和する	1 ヵ年以内
2	6	連絡帳を上手に活用できていない	連絡帳を活用し、家族とのコミュニケーションを図っていく	その日に起きたちょっとしたハプニング等を記載するよう心掛ける	6ヶ月
3	10	チームで作る介護計画とモニタリングができていない	チームで作る介護計画とモニタリングを完成する	再度何ができているか出来ていないかを職員間で話し合い完成させる	6ヶ月
4	15	献立のお知らせや食べたい献立など把握できずにいる	利用者様といっしょに楽しむことの出来る食事の支援をする	利用者様と一緒に献立を考えたり、家族様に献立のお知らせをしていく	6ヶ月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。